

# 栃事研会報



第91号 平成29年10月5日発行  
栃木県公立小中学校学校事務職員研究協議会  
編集発行人 廣田 則子

## <主な内容>

- 副会長あいさつ、研究大会お知らせ・・・p1
- 交流事業、お知らせ・・・p2
- ステージI研修・・・p3
- 栃事研セミナー・・・p4

栃事研HP <http://tochijiken.org/>

## 「期待に応える」

栃事研副会長 繪面 裕

会員の皆様には、日頃より栃事研の活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

さて、今年の4月、私たち学校事務職員にとって、とても重要な法改正がありました。「事務職員は事務をつかさどる」の職務規定と「共同学校事務室の設置」が法で定められたのです。これら法改正で事務職員は、専門性を発揮し、学校運営事務の統括者として学校運営上で重要な役割を果たすことを期待されています。共同実施についても事務機能の強化、業務改善の推進により教員の事務負担軽減を図り、教員が子どもと向き合う時間の確保や学びの充実を実現していくよう、しっかり結果を残していくことが期待されているのです。今後、事務職員はどうなってしまうのだろうと不安に思う方もたくさんいらっしゃると思います。しかし、私たち自身に変革が求められているこの状況をチャンスと捉え、しっかりと期待に応えていくことが、将来に向かっての更なるチャンスへとつながっていくと考えます。的確に状況を分析し、実践、行動していくことが大切です。

栃事研では、「とちぎ学校事務ビジョン」「中期研究計画」を柱に「学校事務や共同実施の質の向上」「事務職員の力量形成」「学校経営参画の具体化・実践化」に取り組んでいます。特に、共同実施組織を運営していくリーダー・ミドル層の育成、研修の体系化に基づく研修の充実、経営参画の実践化に向けた活動を進めています。これら様々な活動を通して「期待に応えられる事務職員」としての力量形成を図っています。そのためには地区や支部、共同実施組織そして会員の皆様が力を合わせ、一体となって取り組んでいかなければなりません。引き続き皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

## 平成29年度栃木県公立小中学校学校事務研究大会

平成29年12月1日(金) 開会式9時20分 栃木県教育会館 大ホール

大会テーマ 「実現しよう！子どもの学びの充実を目指す学校事務を」

サブテーマ ～ 学びづくりは未来づくり、描こう！私たちの向かうべき道を～

○全体研究会 基調講演 「子どもの学びの充実に果たす事務職員の役割」

講師 文部科学省初等中等教育局参事官 木村 直人 氏

シンポジウム 「子どもの学びの充実に果たす事務職員の役割」

シンポジスト 文部科学省初等中等教育局参事官

木村 直人 氏

栃木県義務教育振興協議会 会長

長谷川武士 氏

宇都宮市立昭和小学校 校長

浪花 寛 氏

栃木県公立小中学校学校事務職員研究協議会 会長

廣田 則子

コーディネーター

栃木県公立小中学校学校事務職員研究協議会 研究部長 相澤恵美子

○平成32年度第52回関東地区学校事務研究大会(栃木大会)実行委員会発足式

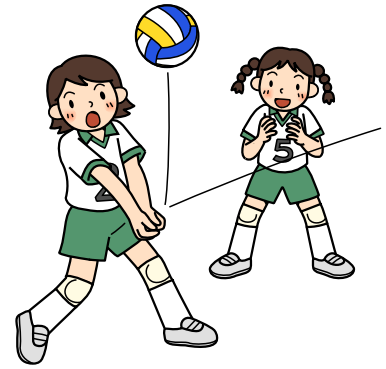
○「とちぎ学校事務ビジョン」と「チャレンジプラン」のまとめ

○50周年記念全国公立小中学校学校事務研究大会(千葉大会)PR

○地区発表 安足地区 「チーム足利 学校財務運営への道」

～ できたがね！学校財務委員会！いきいきと学ぶ子どものために～

## 第6回栃事研交流事業球技大会



8月18日(金)下野市立祇園小学校において、第6回栃事研交流事業球技(ソフトバレーボール)大会が開催されました。

今年も約90名という年齢層も幅広い会員の皆様にご参加いただき、地区・支部で8チームが編成され、トーナメント戦で試合が開始されました。

熱い試合が繰り広げられるこの球技大会ですが、チーム内外で声を掛け合う姿も見られ、熱戦の中にも和気あいあいとした雰囲気があり、終始笑顔や大きな声援が会場内に溢れていました。球技大会を通して会員相互の親睦を図ることができ、とても充実した交流事業となりました。



### ❀ 栃事研からのお知らせ ❀

#### ○ステージⅡ(職務領域拡充期)研修

平成29年10月17日(火) 県教育会館

#### ○共同実施推進会議 平成29年11月7日(火) 学校生協会館

#### ○関東地区学校事務研究大会(山梨大会)

平成30年1月25日(木)~26日(金)山梨県甲府市

#### ○50周年記念全事研セミナー

平成30年2月23日(金)ティアラこうとう

#### ○リーダー研修 平成30年2月予定

#### ○平成30年度栃木県公立小中学校事務職員研修会並びに総会



# ステージⅠ（基本的力量形成期）研修 自己マネジメント



7月7日、採用1～2年目の方を対象とした自己マネジメント研修を行いました。講師は那須塩原市立東原小学校 高野嘉優主任と高根沢町立西小学校 檜山真美 主任をお招きし、33名が参加しました。

まず、栃事研活動の概要と「研修の体系化」の取組についての説明があり、研修の目的や栃事研の活動を理解することから始まりました。次に、グループごとに自己紹介を行い、聞いている人はいいところを本人に書いて渡しました。最初は緊張した様子で

でしたが、話していく中で穏やかな雰囲気になってきたようです。

講義では、マネジメントとは「求める目標に向かって効率的・効果的に動くために、資源を統合し、調整すること」、自己マネジメントは「自分で自分を律し、目的を達成するためのタスクやスケジュールなどを効果的に管理すること」との説明がありました。自分の力を発揮するためには、①自分の強み、②自分の得意な仕事のやり方、③自分の価値観の3つを知ることが大切で、仕事の段取り・時間管理・協働関係・自分の心身調整がポイントになるというお話がありました。



グループ別での演習では、まず課題や悩みの共有化を図りました。受講者は、校種、学校規模、配置数が違うため状況がそれぞれ異なる課題の違いを、お互いに共有している様子が伺えました。

研修の中盤では、先輩事務職員の経験談ということで、宇都宮市立御幸小学校 高山彩 主事にお話いただきました。採用1年目の緊張と不安、問題解決法、異動を経てこれからのこと、そして「子どもたちのために」という内容で数年後へのイメージが浮かぶような勇気づけられるお話でした。

最後に、自分と周囲にある強みを見つけて、課題解決に向けた目標設定と解決策の実行宣言をしていただきました。現在、受講者は、自分でたてた実践目標を達成するために考え、悩みながら実践に取り組んでおります。近隣の先輩方には温かく見守り、ご支援くださるようお願いいたします。



「悩んでいるのは自分だけじゃなかった」、「悩みを共有できて良かった」、「課題解決の方法を一緒に考えることができた」という感想があり、日々の不安を解消する場にもなったようです。経験数か月の今、同じ立場の人と話し合うことで安心や共感にもつながったと思います。良い雰囲気の中、意見や改善策が活発に話し合われていました。

また、グループごとに採用2年目の先輩も参加しており、今までに経験したことを伝えたり、話し合いのサポートをしてくれたりしてくださいました。「同じように悩んだことを思い出し、経験談を話した。参考になったと言われ、うれしかった」、「自分自身の目標を再確認する良い機会になった」などの感想があり、先輩としての姿勢が頼もしく思えました。

## 第15回 栃事研セミナー



8月8日に開催された今年度のセミナーは、講師に足利市立北郷小学校 岡崎信二事務長を迎え、平成28年12月に全会員に配付された「とちぎの研修プログラム」を使い、実際にケース・スタディを体験しながら、研修プログラムの活用方法や具体的な研修の進め方の手法について学び、地域の研修リーダーとしての力量を身に付けることをねらいとしました。市町からの推薦者を含め、56名の事務職員が参加しました。

午前中の講義では、まず、研修プログラムのねらいと効果や事務職員としての力量形成の在り方についての講話をいただきました。実際の学校運営の中で起こりそうなケースを想定し、実践力や技法・思考を引き出す研修を行うことで「研修を行う側」と「研修を受ける側」の双方の力量形成が図られることなどのお話をしてくださいました。グループワークでは、事前課題のケース「学校予算の効率的な執行に向けて」の問題点をできるだけ洗い出し、分類、集約をして「問題点洗い出しシート」にまとめました。一度出た問題点を、さらに「なぜ」「どうして」を繰り返すことでその真因にたどり着けることや、ロールプレイングで更なる気付きを目指すことができるなどのお話をいただきました。

午後は、同じケースを使って実際にロールプレイングを体験しました。模擬的に、廣田会長や副会長たちが校長、教頭、教務主任、教科主任、事務職員の役にふんし、実演を行いました。栃事研役員の迫真の演技に、受講者も影響されたのか、どのグループも真剣に取り組みつつ、大変な盛り上がりを見せていました。事務職員以外の役になりきっていろいろな視点に立つことで、事務職員の立場からは想像できない考えや問題点など新たな気付きがあったようでした。その後、マンダラシートを使って問題点を掘り下げていきました。マンダラシートを使うことは思考の質を高めるのに有効だということを実際の作業を通して学びました。さらにそれらを基に解決策を5W1Hシートに落とし込んでいきました。違った視点をもつことで、問題点に新たな気付きが生まれ、解決策がより具体的になり組織で生きるものになっていきました。まとめに、研修のリーダーとして、学んだことを部分的でも学校や研修の場で生かして欲しい。そして、研修、実践、振り返りのサイクルが大切であること。できないことよりできることを語り合っていこう、というエールで話を締めくくりました。



終始和やかな雰囲気が進み、受講者からは「楽しく研修でき、大変勉強になった。」「様々な意見を聞いて刺激になった。」といった声があがっていました。また、「本日の研修で学んだことを学校現場で活かしていきたい。」「本日の研修を地区でも活かしていきたい。」「学んだ手法を地元の事務研でさっそく活用したい。」といった大変前向きな声もありました。「とちぎの研修プログラム」が、事務職員の力量形成・人材育成において、活用していただけることを期待しています。



「とちぎの研修プログラム」が、事務職員の力量形成・人材育成において、活用していただけることを期待しています。